

看護学実習における臨床指導者のロールモデル行動改善に関する研究

○高塚 由香里^{1) 2)}・ 山川 正信²⁾

ハートランドしぎさん看護専門学校¹⁾、大阪教育大学大学院²⁾

【背景・目的】近年、看護学生の臨床技術の習得意欲を高めるために臨床指導者のロールモデル行動が注目されている。そこで、看護学実習における臨床指導者のロールモデル行動を評価し、それに影響を及ぼす要因を探索するとともに、高いロールモデル行動得点を示す臨床指導者の特性を明確にし、ロールモデル行動改善の基礎資料を得る。

【対象・方法】看護学生の実習を受け入れている奈良県および三重県の10病院に所属し、実習指導に携わっている臨床指導者237名に調査票を配布し、209名から回答(回答率88.1%)を得た。そのうちロールモデル行動尺度に欠損のある15名を除く、194名(有効回答率81.8%)を分析対象とした。調査に用いた測定用具は、舟島らの『看護学教員ロールモデル行動自己評価尺度35項目』と『臨床看護師特性調査紙』を基にして作成した尺度の2種類である。分析にはSPSS Ver18.0を用い、因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行った。臨床指導者の属性間の関連には χ^2 検定を行い、属性による各因子のロールモデル行動得点の差は、2群間の比較には独立した2群のt検定、属性が3群以上の場合には一元配置分散分析による多重比較(Scheffeの基準)を行った。有意水準は何れも5%とした。

【結果】因子分析の結果、6因子27項目の構造が得られ、因子別にみた得点状況は、『成熟度の高い社会性を示す行動』が最も高く、次いで、『看護実践・看護職の価値を具体的に示す

行動』であり、最下位は、『研究に前向きに取り組む展望し続ける行動』であった(表1)。また、臨床指導者の特性との関連をみると、勤務形態では日勤のみの者は夜勤をしている者よりも得点が高く、実習の全期間を通して指導に携わった経験のある者は部分的な指導の経験のみの者よりも高い得点を示した。

表1 各因子別にみたロールモデル行動得点(降順)

		平均値	標準偏差
第II因子	成熟度の高い社会性を示す行動	3.75	0.56
第V因子	看護実践・看護職の価値を具体的に示す行動	3.60	0.82
第III因子	学生を尊重し誠実に対応する行動	3.56	0.69
第I因子	熱意を持ち質の高い教授活動を志向する行動	3.32	0.72
第IV因子	職業活動の発展を志向し続ける行動	3.19	0.81
第VI因子	研究に前向きに取り組む展望し続ける行動	2.63	0.92

【考察】看護学実習における臨床指導者のロールモデル行動得点は、人としての在り方や看護実践能力の側面で高く、研究活動など職業の発展を目指す行動で低い特徴が示された。また、看護学実習受け入れ中の勤務は日勤とし、実習の全期間を通して看護学生に関わることが必要であることが示唆された。

【結論】臨床指導者は教育実践経験を多く有し、実習受け入れ病院は指導体制を整備するとともに、臨床指導者に教育実践力向上のための教育や研修の機会を与え、研究への取り組みを奨励する体制づくりが必要である。

E-mail; takatsuka@shigisan.ac.jp